討議資料

区民をないがしろにする無責任から、
社会や政治を取り戻す。

区民派・新人
目黒区出身の45歳

岸（きし） 大介（だいすけ）

http://kishidaisuke.com

個人献金のお願い

資金力のある企業や団体による政治家への献金により、これまでの“政策”や“予算”は、大きくその影響下に置かれてきました。その為、本来政治や行政のサービスを必要としている人々が置き去りにされ、公共事業は先進国の中で最も高いのに、子育て・教育予算は先進国中で最低レベルというのが現状です。旧来型の企業献金から、未来型の個人献金に！政治風土さえもシフトしていかなければなりません。

私の考えに、
是非お力をお貸しください！
貴方様からのご献金を
お待ち申し上げます。

「区民と岸大介の会」お振込先

郵便振替　00120-6-487566
みずほ銀行　大岡山支店　普通 2339974

区民と岸大介の会
〒152-0033 目黒区大岡山 1-13-10 303
TEL: 090-3360-3286
FAX: 03-5539-3510
Email: info@kishidaisuke.com
＼公式 WEB はこちら／
info.kishidaisuke　kishidaisuke　info.kishidaisuke

http://kishidaisuke.com

初めまして。私は目黒生まれ目黒育ちの45歳、
「岸 大介（きし だいすけ）」と申します。
思う所ありこの度、これまでの職場や社会生活に区切りをつけ、
目黒区内にて政治活動を始めました。
どうぞお見知りおき下さい。

「岸 大介」ってどんな人？

1973 年	東京都目黒区生まれ
1986 年	トキワ松小学校 卒業
1998 年	東北芸術工科大学 デザイン工学部 卒業
2005 年	米コロンビア大学 大学院修了 行政学修士
2007 年	イオン株式会社 入社　食品部配属（水産担当として魚屋勤務）
2008 年	議員秘書（地元・国会勤務を経て、私設・公設秘書経験）

敬愛する日本文学者ドナルド・キーン先生と

イオン入社 銀鮭と格闘中

秘書として国会勤務

運送業者勤務で力仕事もこなす

2013 ～ 2015 年	上司議員の選挙落選・政権交代に伴う失職により再就職。 軽貨物輸送会社設立幇助からの下請け配送係 （新宿・四谷担当にて 1 日平均 130 個）を経て、 医療専門人材派遣会社勤務。（東京医療事業部 保育部門マネージャー）
2016 ～ 2017 年	民進党本部国際局嘱託職から 東京都連・都議会民進党政策調査会に特別職員として勤務
2017 ～ 2018 年	衆議院議員（元復興副大臣、元文部科学大臣）政策担当秘書
2018年7月～現在	目黒区にて政治活動中

目黒区にて政治活動を開始

趣味	社交ダンス、Jazz、四国遍路
好きな言葉	「明日、世界が滅びるとしても 今日、君はリンゴの木を植える」 by 開高 健
好きな食べ物	蕎麦、カレー、牡蠣、イチジク、純米酒
家族	妻

政治活動の基本姿勢
3つのスタンス

01 子供世代にツケを残さない！
財政と環境、最低でも“今ある日常”を次の世代に残す義務が、我々世代には課されています。

02 スジを通す！
いかなる事情があろうとも定められたルールを守り、社会的弱者の小さな声を聞き逃さない。これまでの歴史や推移、文化伝統・風習を無視した、強者に都合の良い判断やエゴを阻止します。

03 フェアな世をつくる！
ルールや規制が無いなら何でもやって良いのか？日本人は損得ではなく善悪やモラルで物事を判断してきたはずです。あらゆる不正や隠ぺい、癒着・私物化を許さず、与党や首長に全てを委ねることに危機感を持ち続けます。

責任ある未来をつくるために

岸大介の“想い”

私のこれまでの半生は東京目黒を離れる期間が長く、地元を顧みる機会は殆どありませんでした。20 代や 30 代の頃は多くの若者同様に、漠然とした夢や理想に向けてガムシャラであったものです。しかし、当然の事ながらその間に近親者は他界し、両親は老い、背負うべき物事が増えてゆきました。齢四十半ばを迎え、故郷でない土地で単身赴任生活をしながら想ったことは、およそ残り半生の時間をどの様に使うかということでした。急速に変革するこの時世の中でも、自治体や先祖から受け継いだ地域を守り、可能な限り故郷の継続性を維持し、次の世代に繋げてゆきたい。この様に思う使命感が政治活動への原点となりました。

現在の日本は、過去に類を見ない急速な少子高齢社会を迎え、100 年後の人口は 4300 万人とも推測（内閣府）されています。国と地方を合わせて 1100 兆円もの借金を抱え、我々 1 世帯あたりにして 2300 万円もの債務を強制的に抱えさせられています。

このように、過去のツケとして現在に突き付けられている不都合の象徴が人口減少と財政と環境ですが、では今を生きる我々世代は何とすべきなのでしょうか。次世代にツケを押し付ける風潮から、未来に夢や希望を描き、みんなで前進、或いは成熟していくことが出来る社会へと、生き方・あり方の転換をしなければならないはずです。そのためには、一般生活者である私達が、政治や行政へ積極的に参加することが何よりも大事なのではないかと思うのです。

目黒区に目を移せば、住宅地でありつつも町は発展し、社会インフラが整い、交通事情も良く、都内でも屈指の犯罪発生率の低さを誇ります。ですが、当たり前に思える“普通”の影では、幼児や高齢者への虐待（死）、身体や心の病気、ハラスメントが原因の職場環境からの疎外等、社会的弱者へのしわ寄せが起こっています。或いは、そのような“闇”を常に内包しています。たとえこの瞬間は健常な日常生活を送っていたとしても、会社の都合や育児・介護離職等、予期せぬ出来事が発端となって軌道から外れ、人生設計を狂わすことが、いとも簡単に起こりうるのです。そして、そのリスクに対する社会的セーフティーネットさえ不十分のままであるというのが、生活者の実情ではないでしょうか。

子供の将来に不安はありませんか？
老後を安心して迎える準備はできますか？
将来の夢を描く事や、理想はありますか？
国政や区政に満足されていますか？
今、幸福であると実感できますか？

もしもお答えが
No でしたら
それは政治の責任です

「自分の居場所のある社会、必ずしも一億総活躍しなくても許される社会。」

21 世紀になった頃からか“自己責任”という言葉が独り歩きしてきたように思います。その一見すると美名とも受け取れる言葉で、“普通”から外れた生き方を選んだ或いは、選ばざるをえなかった人々の立場を社会が追い詰めるという様相に、私は違和感を禁じえません。本来であれば社会全体で負うべき部分もあろう責任を「自己責任」という軽い言葉で１００％個人に押し付けたのは、政治の無責任な体質の現れだったのではないでしょうか？「自由化、規制緩和、新自由主義、人生色々発言」等々で得をしたのは、そもそも誰だったのでしょうか。それは、誰も責任を取らない、取らなくても良かったこれまでの政治とその取り巻き、その時々のリーダー達であったに他なりません。

誰もが安心して暮らせる居場所があり、多様性と不都合さえ包容しうる地域へ、深く成熟した地域環境を整えてゆく。それが 21 世紀に目黒区が目指す姿なのではないかと私は考えます。個人の努力だけではどうしようもない状況に陥った時、制度のはざまにこぼれ落ち身動きが取れなくなった時、追い詰められる前に手を差し伸べてくれるのが本来の政治の姿です。私の残りの半生は、社会の“無責任”と闘い、区民の側に立脚しながら、当事者等と連携しながら政策提言につなげてゆくことが使命であると考え、今日もこの街を歩いて参ります。

「区民と岸大介の会」代表　岸 大介

目黒から新しい政策を！

徹底して情報開示をします

- 「モリ・カケ」問題に象徴される、“行政のゆがみ”を防ぐ為、情報開示と公文書保管を徹底します。
- 行政サービスや公報等、情報弱者にも公平な情報伝達を追求します。
- わかりやすい医療、介護、福祉の制度を拡充します。

ともに支え合う地域社会を実現します

- 幼児や高齢者への虐待を許さない。身体や心の病気、ハラスメント被害等、社会的弱者を守ります。
- 障害や LGBT、貧困等を理由とする偏見や差別に立ち向かいます。
- 町会や自治会、住区住民会議等を活用した、地域コニュニティーの見守りネットワークを強化します。
- 犬・猫の殺処分ゼロへ。ペットの里親バンクを構築します。

生活者目線での暮らしの立て直しを図ります

- 駅周辺の防災性の向上を目指します。
- 集合住宅開発などにおける周辺の住環境に配慮した施索を推進します。
- 歩行者優先経路の安全性の向上とバリアフリー化、自転車通行道路の整備を急ぎます。
- 待機児童の区別ランキングのワースト上位常在を返上します。